

易しい

EASY

KIND

優しい

川崎市 〈やさしい日本語〉 ガイドライン

〈やさしい日本語〉とは
普通の日本語よりも
簡単でわかりやすい
日本語のことです。




Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

第2版

目次

● 第1章 はじめに 外国人にもわかりやすい情報提供

〈やさしい日本語〉とは	1
川崎市の外国人市民の現状	1
〈やさしい日本語〉の有効性やメリット	3
〈やさしい日本語〉で大切なこと	7
このガイドラインの目的	8

● 第2章 〈やさしい日本語〉のつくり方

ポイント1 情報	9
ポイント2 表現、言葉づかい	12
ポイント3 表記	15
〈やさしい日本語〉での会話	18

● 第3章 参考情報

〈やさしい日本語〉の作成に役立つツール	20
外国人とのコミュニケーションに役立つツール	20
参考文献	20
〈やさしい日本語〉のポイント集	21

第1章

はじめに 外国人にもわかりやすい 情報提供

〈やさしい日本語〉とは

〈やさしい日本語〉とは、普通の日本語よりも簡単で外国人にもわかりやすい日本語のことです。〈やさしい日本語〉の〈やさしい〉には〈易しい〉(=簡単/easy)と〈優しい〉(=相手を思いやる/kind)という2つの意味があります。

〈やさしい日本語〉の考え方は、日本に特有のものではありません。たとえば、イギリスやアメリカには明確さと簡潔さを重視する「プレイン・イングリッシュ(Plain English)」と呼ばれるものがあります。アメリカでは1978年に大統領令が出されるなど、行政の公的文書だけではなくビジネスでも広く使うことが求められています。

〈やさしい日本語〉も「プレイン・イングリッシュ」も、誰にでもわかりやすく情報を伝えるための手段の1つです。

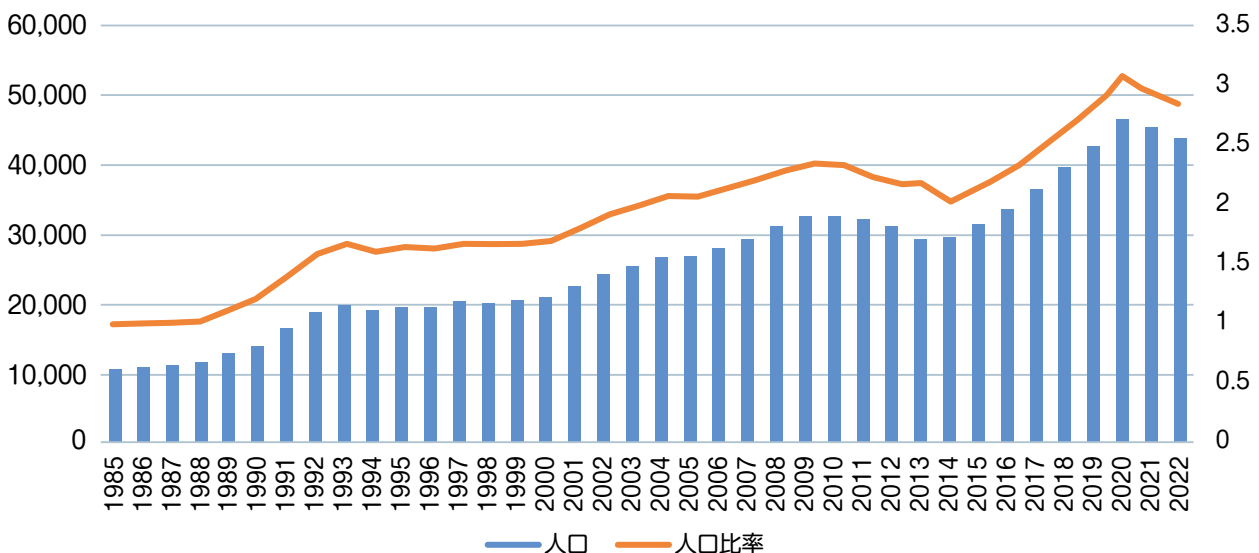


川崎市の外国人市民の現状

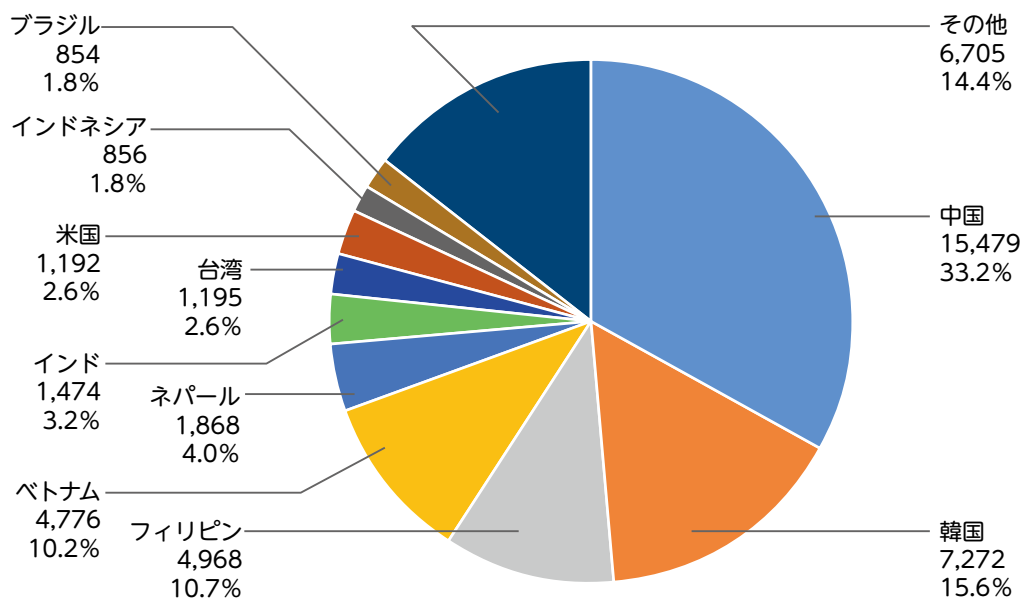
川崎市には、2022年12月末現在で46,639人、人口比率で3.03%の外国人住民が生活しています。1980年代の後半以降、外国人住民の人口は大きく増加してきました。2021年から2022年にかけては新型コロナウイルス感染症の影響で減少に転じましたが、2022年3月以降は再び増加傾向にあります。この5年間では約7,800人増えており、増加率は20.3%となっています。

また、単に人口が増えているだけでなく、出身の国・地域の数も140を超えるなど、増加とともに多様化が進んでいるのが現状です。

外国人住民人口の推移(1985年3月～2022年3月)



国籍・地域別内訳(上位10)



上位20の国・地域の公用語

順位	国・地域	人数	公用語
1	中国	15,479	中国語
2	韓国	7,272	韓国語
3	フィリピン	4,968	フィリピン語、英語
4	ベトナム	4,776	ベトナム語
5	ネパール	1,868	ネパール語
6	インド	1,474	ヒンディー語、英語
7	台湾	1,195	中国語
8	米国	1,192	英語
9	インドネシア	856	インドネシア語
10	ブラジル	854	ポルトガル語
11	タイ	708	タイ語
12	ミャンマー	502	ミャンマー語
13	ペルー	477	スペイン語
14	朝鮮	424	朝鮮語
15	英国	365	英語
16	バングラデシュ	360	ベンガル語
17	スリランカ	317	シンハラ語、タミル語
18	フランス	302	フランス語
19	マレーシア	275	マレーシア語、タミル語
20	モンゴル	250	モンゴル語

コラム



【近年の傾向】

この5年間でもっとも多く増えたのはベトナムの2,087人で、次いで中国の1,585人、フィリピンの778人と続きます。一方、増加率で見ると、上位20の国・地域のうちもっとも高いのはミャンマーの248.6%、次いでバングラデシュの123.6%、インドネシアの93.2%となっています。ほかにも、近年ではネパール、スリランカ、モンゴルなども大きく増加傾向にあります。ただし、2000年代のはじめにブラジルやインドが大きく増加したものの、そのあと減少したように、外国人住民の構成は時間とともに変化もします。

〈やさしい日本語〉の有効性やメリット

(1) 外国人市民への有効性——川崎市外国人市民意識実態調査の結果

① 調査対象

市内在住の外国籍住民のうち満18歳以上の個人

② 標本数

5,000標本

③ 標本抽出・調査方法

住民基本台帳からの単純無作為抽出
郵送配布・郵送回収

④ 調査期間

2019年6月28日～2019年7月30日(8月31日到着分までを有効票とした)

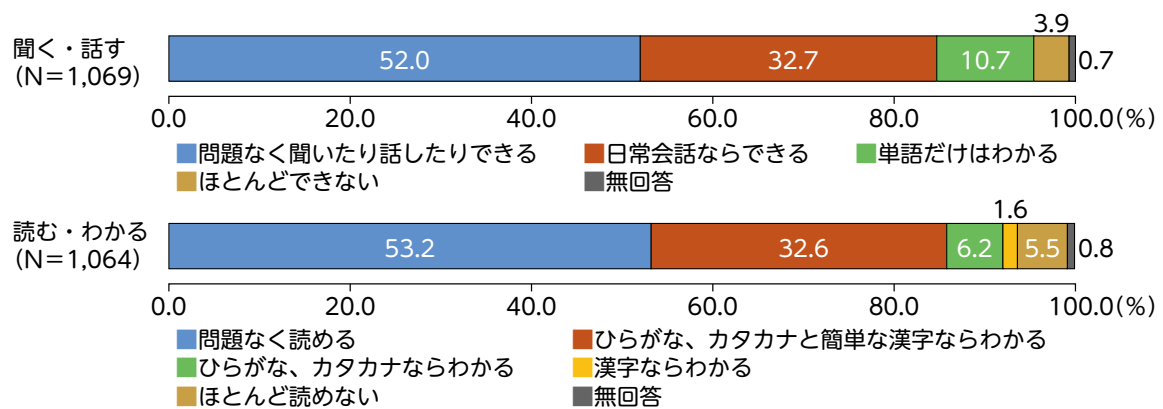
⑤ 調査言語

日本語(ルビつき)、英語、中国語(簡体字)、中国語(繁体字)、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、タイ語、ベトナム語 <<計10言語>>

⑥ 有効回収

1,085件(有効回収率21.7%)

日本語能力

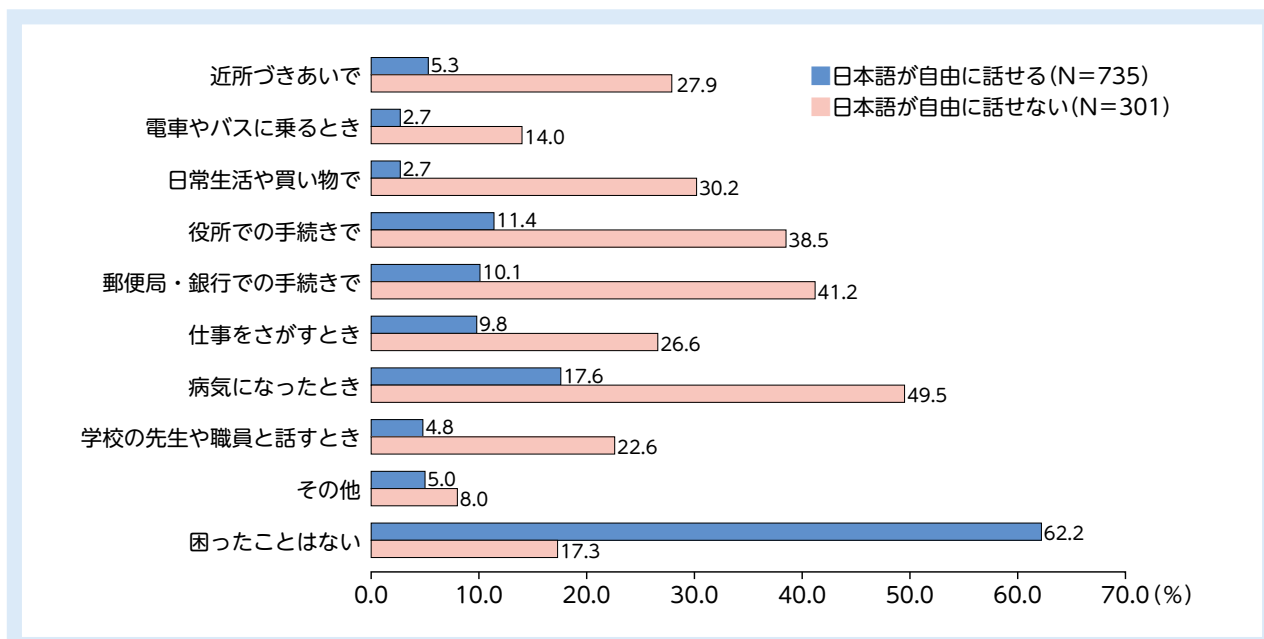


「聞く・話す」「読む・わかる」ともに、約半数の人が「問題ない」という結果でした。「聞く・話す」では、「日常会話ならできる」と「単語だけはわかる」までくわえると95.4%になります。「読む・わかる」でも、「ひらがな、カタカナと簡単な漢字ならわかる」と「ひらがな、カタカナならわかる」までくわえると92.0%になります。

「ほとんどできない」「ほとんど読めない」という人も一定数いますが、全体としては〈やさしい日本語〉なら理解できるという人は多いといえます。

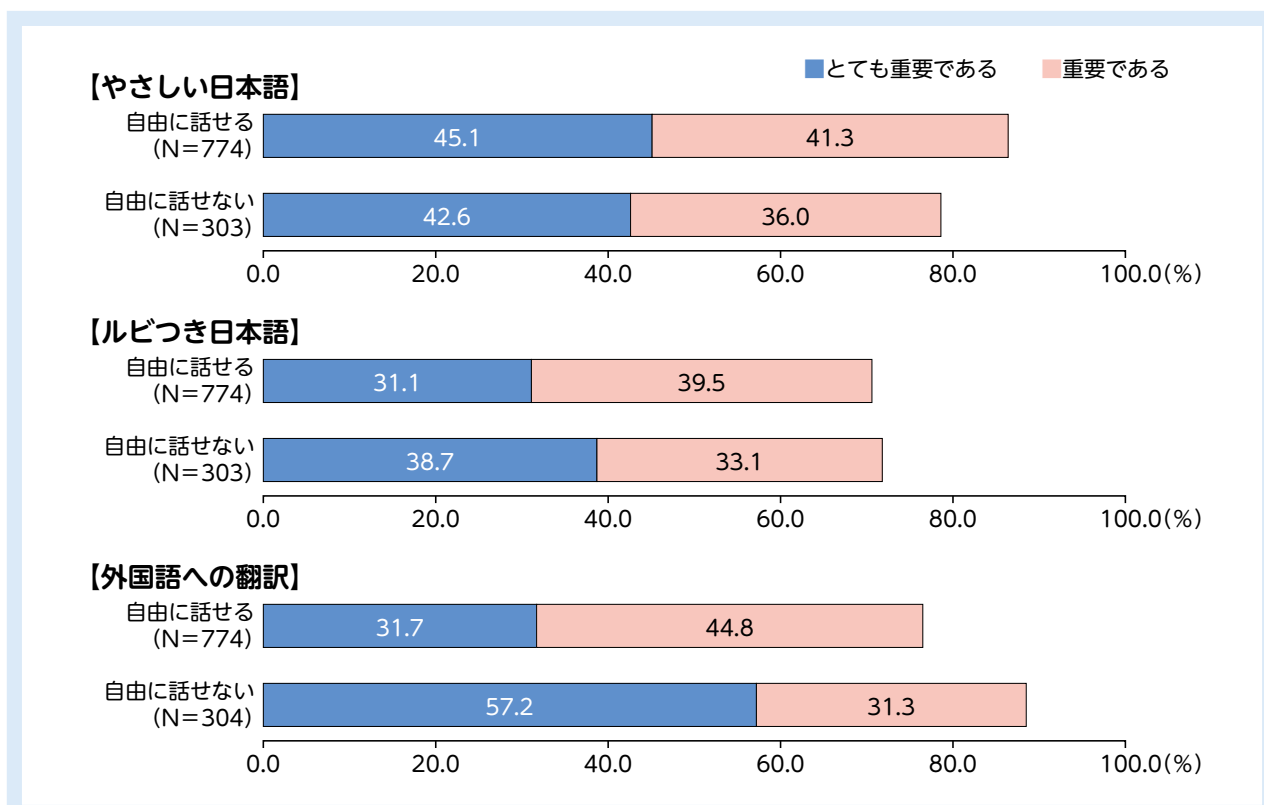


日本語会話能力と日本語で困った経験



「日本語が自由に話せない」という人だけでなく、「日本語が自由に話せる」という人でも、日常生活のさまざまな場面で日本語で困った経験があることがわかります。

日本語会話能力と情報提供のニーズ



「やさしい日本語」、「ルビつき日本語」、「外国語への翻訳」のいずれも高いニーズがあります。「日本語を自由に話せない」という人では、「外国語への翻訳」がもっともニーズが高いですが、「やさしい日本語」も78.6%と8割近くの人が重要だと考えています。また、「日本語を自由に話せる」という人では、「外国語への翻訳」よりも「やさしい日本語」の方が重要だと考えている人が多いです。

(2) 〈やさしい日本語〉のメリット

日本語能力の高い／低いにかかわらず、外国人市民にとってもっとも望ましいのは、母語で情報にアクセスできること、母語でコミュニケーションがとれることです。しかしながら、140を超える国・地域出身の約4万6千人の外国人市民がいる中で、すべての外国人市民に対してそれぞれの母語で情報を提供したり、母語でコミュニケーションをとったりすることは、翻訳者・通訳者の確保や費用、表示方法など多くの点で現実的に困難です。

川崎市では、「外国人市民への広報のあり方に関する考え方」で英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、ベトナム語の7言語を標準とするとしていますが、この7言語だけですべての外国人市民に対応できるわけではありません。

しかし、「単語だけはわかる」や「ひらがな、カタカナなら読める」という人たちを含めると、外国人市民の9割以上が日本語でも情報の取得やコミュニケーションが可能です。もちろん、外国語への翻訳が不要というわけではありませんが、〈やさしい日本語〉を活用すれば**より多くの外国人市民に、より時間をかけずに、より多くの情報**を伝えることができるようになります。

さらに、〈やさしい日本語〉には別のメリットもあります。最近では、コンピュータを利用した機械翻訳の精度も向上してきており、スマートフォンなどで誰でも手軽に使えるようになってきています。とはいえ、日本語の文章が難しかったり、文法が複雑だったりすると、どうしても翻訳の精度が悪くなってしまいます。それに対して、〈やさしい日本語〉の文章は、伝えたいこと・目的が明確で、文法的にもわかりやすくしたもので、**機械翻訳の精度を上げ、その実力を最大限引き出す**こともできるようになるというメリットもあるのです。



〈やさしい日本語〉と多言語翻訳の比較

	〈やさしい日本語〉	多言語翻訳
外国人への わかりやすさ	△ 多言語翻訳に比べるとやや劣る	○ 母語に対応している場合にはもっとも有効
対象者	○ 言語数によっては多言語翻訳よりも有効	△ 翻訳言語数による
情報の正確性	△ 多言語翻訳に比べるとやや劣る	○ 原文と同じように伝えることができる
コスト	○ 翻訳費用が不要	× 翻訳費用が必要
かかる時間	○ 多言語翻訳に比べると早い	× 翻訳に時間がかかる
習得	○ 外国語の習得と比べると容易	× 容易ではない
日本人への わかりやすさ	○ 子どもや高齢者、障害者にも有効	× 基本的に日本人を対象としていない

〈やさしい日本語〉と多言語翻訳には、それぞれメリットとデメリットがあります。一般に、より多くの人に広く周知したい場合やコストあるいはスペースに制約がある場合は〈やさしい日本語〉の方が適しています。一方で、重要性が高くより正確に情報を伝える必要がある場合は多言語翻訳の方が適しています。

(3) 外国人以外への有効性

〈やさしい日本語〉は、「外国人のため(だけ)に、日本人が配慮や譲歩をする」というものではありません。「わかりやすい」「平易な」言葉づかいかや表現、文章は、外国人だけではなく、**子どもや高齢者、障害のある人たち**にとっても有効だといわれています。

また、〈やさしい日本語〉を使えるようになることは、「自分の考えを、できるだけ正確に相手に伝えて、相手に理解してもらおう」という日本語運用能力を高めることにもつながります。

つまり、〈やさしい日本語〉は、誰にでもわかりやすく情報を伝えるための手段の1つで、〈やさしい日本語〉を使えるようになることは自分自身の日本語能力を磨くという意味でもメリットのあることなのです。

〈やさしい日本語〉で大切なこと

〈やさしい日本語〉で大切なことの1つは、〈やさしい日本語〉には「**決まった正解がない**」ということ。このガイドラインでは、〈やさしい日本語〉をつくる／使う際の基本的なポイントやテクニックについて説明しますが、それは「こうすれば正解がつかれる」というものではありません。というのも、〈やさしい日本語〉はそれを伝えようとする相手によって、「正解」が変わってくるからです。たとえば、非漢字圏の人にとっては、漢字が多く使われている文章はルビが振ってあったとしても難しく感じます。一方で、漢字圏の人にとっては、漢字が多く使われている方が文章の意味がとりやすいといえます。このように、**何が〈やさしい〉のかは、情報を伝えたい相手によって変わってくる**のです。

相手によって何が〈やさしい〉のかが変わってくるという問題は、「言葉」の表現や表記に関することだけではありません。外国語の文章をそのまま日本語に翻訳しても、それだけでは意味がとれないことがあります。その原因は文章の背景にある「文化」的な文脈を共有していないことにあります。たとえば、日本の学校では校舎のなかでは「上履き」を履くのが一般的ですが、これは世界共通の文化ではありません。ですから、せっかく「^{うわば}上履き」とルビを振ったり、「うわばき」とひらがなで表記したりしても、そもそも「上履き」を知らなければ意味が伝わらないのです。このような場合には、「上履き」とはどのようなものなのか、という「補足」の情報や説明が必要です。翻訳や通訳がそうであるように、〈やさしい日本語〉もまた**単なる言葉の置き換えではなく、〈文化の翻訳〉という側面を持っている**のだといえます。

このことは、日本人なら誰でもすぐに〈やさしい日本語〉を使える(ようになる)わけではない、ということの意味します。〈やさしい日本語〉をつくれる／使えるようになるためには、まずは自分にとっての「あたりまえ」が相手にとっても「あたりまえ」なのかを立ち止まって考えることからスタートする必要があります。そのうえで、相手にあわせて何が〈やさしい〉のか(=どのような配慮や工夫が効果的なのか)を考えることが大切です。〈やさしい日本語〉では、**自分にとっての「あたりまえ」や相手のことをイメージするという《想像力》が欠かせません**。

もう1つ、〈やさしい日本語〉で大切なことは、〈やさしい日本語〉は情報伝達やコミュニケーションの手段の1つだということです。情報伝達やコミュニケーションで大事なことは、「相手に伝わる」ということです。**〈やさしい日本語〉にしたら「終わり」ではなく、それが相手に伝わっているかを確認することも重要です**。コミュニケーションには齟齬がつきものなので、一方通行で一度きりのものではなく、双方向のやりとりのなかで互いの理解を深めていくことが大切です。ですから、もし相手に伝わっていなければ、別の配慮や工夫を考えて、もう一度、相手に伝えなおそうとすることも必要になってきます。



このガイドラインの目的

これまで、川崎市では1998年に策定した「外国人市民への広報のあり方に関する考え方」にもとづき、外国語による広報の充実とともに日本語の資料を作成する際には平易でわかりやすい表現を用いたり、ルビを振ったりするなどの取組を進めてきました。また、2012年度から主として庁内の職員を対象に〈やさしい日本語〉の研修を行うなど、〈やさしい日本語〉の普及にも努めてきました。

そのようななかで、2015年度に川崎市外国人市民代表者会議から〈やさしい日本語〉のガイドラインの作成が提言されたこと、また、2020年8月に出入国在留管理庁・文化庁が「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」を策定・公表したことを受け、川崎市でもこれまでの取組で蓄積された知見をふまえ、「川崎市〈やさしい日本語〉ガイドライン」を策定することといたしました。

国が策定したガイドラインでは、在留支援を目的に、書き言葉に焦点をあてており、ポイントも絞ったものになっています。それに対し、川崎市のガイドラインでは、主として外国人を対象として想定しながらも、〈やさしい日本語〉を**誰にでもわかりやすく情報を伝えるための手段の1つ**としてとらえています。また、書き言葉だけでなく、**会話**についてもふれています。〈やさしい日本語〉のつくり方でも、これまで川崎市で実践してきた**カタカナへのルビ振りや「分かち書き」**など、国のガイドラインではふれていないポイントについても紹介、説明しています。

このガイドラインは、誰にでもわかりやすく情報を伝えるための手段として、〈やさしい日本語〉を広く周知し、多くの人に活用してもらうために作成したものです。行政はもちろんですが、企業や学校などでも広く使われることを期待しています。また、一般の市民の方たちにも、ぜひ〈やさしい日本語〉の存在を知ってもらい、関心を持ってもらえればと思っています。

ただし、〈やさしい日本語〉を普及させ、活用を推進すれば**多言語翻訳が不要になるわけではありません**。また、〈やさしい日本語〉と多言語翻訳は、どちらか1つの方法しか選べないというものでもありません。たとえば、災害時などは、まずは〈やさしい日本語〉で速報を伝え、そのあとに多言語でより詳しい情報を伝えるということも有効です。**〈やさしい日本語〉と多言語翻訳はそれぞれに長短の特徴がありますので、相互に補いあうことが重要です**。

なお、このガイドラインは主として日本語母語話者に〈やさしい日本語〉を知ってもらい、つくれる／使えるようになってもらえることを目的としています。そのため、このガイドライン自体は必ずしも〈やさしい日本語〉でつくられているわけではありませんのでご了承ください。

誰にでも
わかりやすく
情報を
伝える



第2章

〈やさしい日本語〉のつくり方

ここからは、〈やさしい日本語〉のつくり方を具体的に紹介、説明していきます。

ポイントになるのは、

「情報」「表現、言葉づかい」「表記」の3つです。

情報 Information

表現 Expression

表記 Notation

ポイント1 情報

〈やさしい日本語〉というと「表現、言葉づかい」や「表記」における工夫・配慮と考がちですが、実は最初に考えなければいけないのは「情報」です。

(1) 対象と目的を明確にする

「誰に」「何を」伝えたいのかを明確にしましょう。対象者が絞れていないと、何を伝えたいのかもぼやけてしまいます。複数の異なる対象者を想定している文章は、いろいろな内容や情報がごちゃ混ぜになりがちなので、長くなってしまいます。

(2) 情報を整理して絞る

「誰に」「何を」伝えたいのかを明確にしたら、次は情報を整理(取捨選択)しましょう。ここでのポイントは、次の5つです。

◆ ①優先順位の低い情報は削る

優先順位の低い情報は思い切って削りましょう。その際、情報の優先順位は情報を発信する側ではなく、情報を受けとる側(読み手)を基準に考えましょう。時候のあいさつのようなお決まりの定型文は、「情報を伝える」という目的にとって優先順位は低いです。同様に、文末に置かれることの多い「ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします」のような定型文もそれ自体は重要な情報や内容を含んでいるわけではありません。

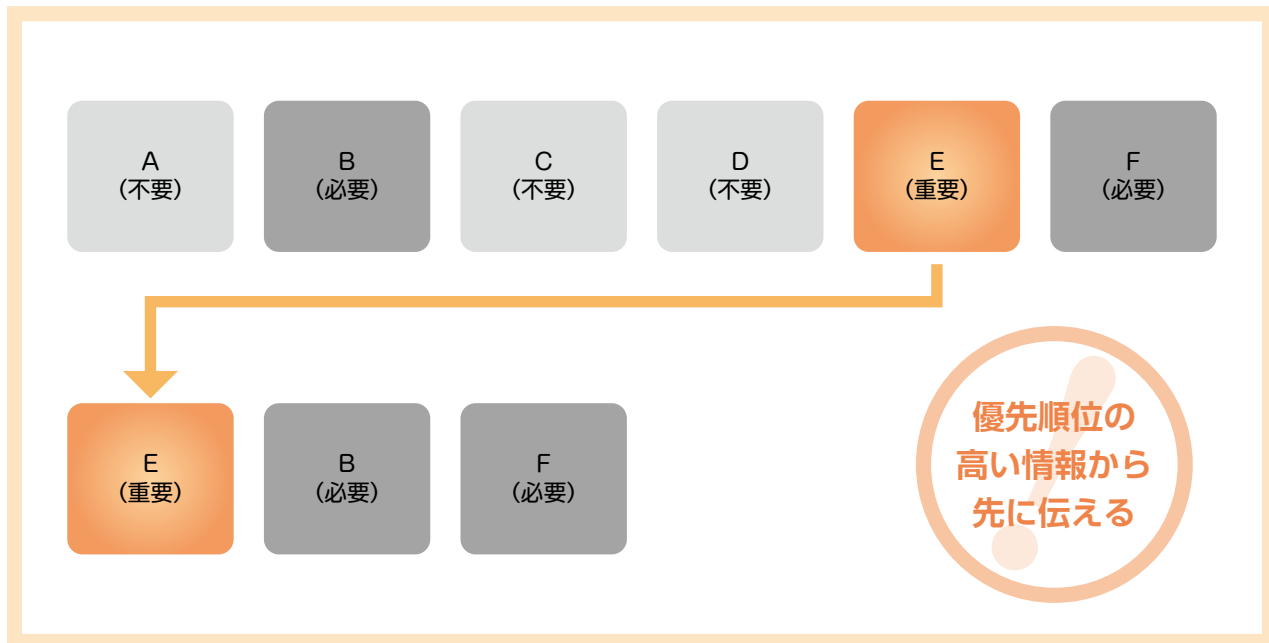
また、公用文では根拠となる法令や用語の厳密な定義を示すこともよくありますが、多くの場合、読み手にとっては理解するのが難しいうえに優先順位の低い情報です。もちろん、根拠を示す必要がある場合もあります。そのような場合には、たとえば「〇〇は法律で決められています(〇〇法第〇条)」などとして、最低限の情報だけに簡略化したり、実際の法令文は最後に参考情報として載せたりするのがよいでしょう。

さて、情報が多く、文章が長くなってしまっているものには2つのタイプがあります。1つは、余分な情報が多いものです。余分な情報に関しては、比較的簡単に優先順位をつけて削ることができると思います。もう1つは、詳細な情報をすべて伝えようとするものです。とくに、公用文ではできるだけ正確に情報を伝えようとするために、情報が詳しく、細かくなりがちです。しかし、詳細すぎる情報(とくに条件を示すようなもの)は、「結局、何も理解できなかった」ということになってしまうことも多いです。情報を受けとる側(読み手)からすると、まずは情報の大枠が知りたいのです。情報を発信する側からすると、あとから細かいことをいろいろと聞かれるのが面倒だという思いがあるかもしれませんが、それは発信する側の都合だけしか考えていません。〈やさしい日本語〉では、情報を受けとる側(読み手)を基準に考えることが大切です。

◆②重要な情報は前にもってくる

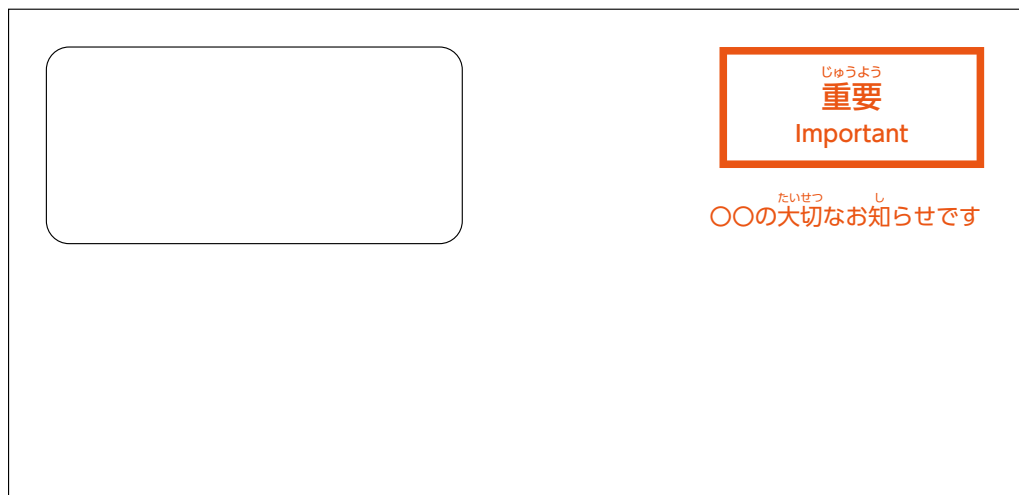
情報に優先順位をつけたら、重要な情報は前にもってきましょう。とくに一番伝えたいことや結論は、文章の最初にもってきましょう。日本では、文章の書き方は「起承転結」と教わることも多いですが、国際的には最初に「結論」、次にその「理由や根拠」といった順番で文章を構成するのが一般的です。重要な情報を前にもってくるのは、単にそれが「グローバル・スタンダードだから」というわけではありません。情報を取捨選択しても、読み手がすべての情報を理解できるとはかぎりません。重要な情報を前にもってくるのは、優先順位の高い情報から確実に読み手に伝えるためです。

[例]



行政などからの重要なお知らせや通知も、何が書かれているのか読めないと、中身を開けずにそのままにされてしまうことも多いです。重要なお知らせや通知を出す場合には、目立つように「重要」と書いたり、ルビを振ったりすると効果的です。

[例]



◆③1つの文章には1つの意味(一文一義)にする

1文のなかに複数の内容が含まれると意味をとるのが難しくなります。1文に複数の内容が含まれている場合は、1つの内容になるように文章をわけましょう。

[例]

婚姻をするときは、役所に届出をし、
届出が受理されると、婚姻が成立します。



**結婚するときは、役所に「婚姻届」を出します。
役所が「婚姻届」を受けつけると、結婚が成立します。**

自転車は枠内に駐輪し、必ず施錠をして下さい。



**自転車は枠のなかにとめてください。
必ず鍵をかけてください。**

説明したい内容は、
1文につき1つにしましょう。



◆④例示は3つまでにする

例がたくさんある場合は、頻度が高いものから3つまでに絞りましょう。たとえば、「本人確認書類」などは漏れなくすべて示されていることが多いですが、実際には頻度の高い3つまでにおさまることがほとんどです。外国人の場合には、「在留カード」「運転免許証」「パスポート」(あるいは「マイナンバーカード」)を例示するとよいでしょう。もし、どれもっていない場合は、個別に確認してもらえばよいのです。

◆⑤必要に応じて情報を補足する

〈やさしい日本語〉の基本は「情報を整理して絞る」ことです。ただし、必要に応じて情報を補足した方がよい場合もあります。たとえば、制度は国によって異なることが多いです。また、日本独特の文化もそのままでは外国人には伝わりません。7ページでは「上履き」の例を紹介しましたが、〈やさしい日本語〉では、自分(たち)にとっての「あたりまえ」や相手のことをイメージするという《想像力》が欠かせません。

ただし、情報を補足すれば、それだけ文章が長くなってしまいます。補足の説明の場合には、※印などを使って注釈というかたちで補足するとよいでしょう。

ポイント2 表現、言葉づかい

(1) 平易な表現や言葉づかい

〈やさしい日本語〉といわれて多くの人が最初にイメージするのは、「難しい言葉を使わない(難しい言葉を言い換える)」ということではないでしょうか。ここでは、代表的な7つの例を紹介します。

◆①漢語ではなく和語にする

[例]

両親	▶ お父さんとお母さん
喫煙	▶ タバコを吸う
今朝	▶ 今日の朝
登校	▶ 学校に行く
記入	▶ 書く
利用	▶ 使う
未加入	▶ まだ入っていない
滞納	▶ まだ払っていない
土足厳禁	▶ 靴を脱いでください
医療機関を受診してください	▶ 病院に行ってください
可能	▶ することができます
不可能	▶ することができません
こちらに記入願います	▶ この紙に書いてください

◆②カタカナ語に気をつける

日本で使われているカタカナ語や外来語のなかには、本来の意味とは違って使われているものや日本独自のもの(和製英語)があったりします。たとえば、日本では生活に必須なインフラである水道や電気、ガス、公共交通機関などを指して「ライフライン」といったりしますが、英語の「Life line」は「命綱」や「生命線(手相)」といった意味です。

[例]

セルフサービス	▶ 自分でする
ノートパソコン	▶ ラップトップ コンピュータ

◆③敬語ではなく普通語にする

敬語は丁寧語(「～してください」など)だけにして、尊敬語や謙譲語は使わないようにしましょう。

【例】

召し上がる	▶ 食べる／飲む
お越しいただく必要はありません	▶ 来なくてもいいです
おかけください	▶ すわってください

◆④専門語ではなく日常語にする

【例】

授業参観	▶ 授業を見る
初診の方は、保険証を見せて下さい	▶ この病院は初めてですか？ 保険証はありますか？

◆⑤二重否定や排他文は使わない

【例】

～ないことはない／～ないわけではない	
18歳以上の方は対象外です	▶ 17歳までの人が対象です
在留カード以外は必要ありません	▶ 在留カードを持ってきてください

◆⑥曖昧な表現は使わない

日本語には直接的な言いまわしや表現を避けて「察する」という文化があるかもしれませんが、そうした文化を共有していない人には伝わりません。こちらが「伝えたつもり」になっているのに「伝わっていない」とコミュニケーションに齟齬が生じますし、トラブルに発展することもあります。とくに「してほしいこと」や「してほしくないこと」は明確に伝えるようにしましょう。

また、複数の意味をもつ表現は使わないでください。「くらい」「ころ」「など」といった幅をもたせる表現もなるべく使わないようにしましょう。

【例】

ご遠慮ください	▶ しなくてください
結構です	▶ よいです／要りません ※2つの意味があるので使わない
9時くらいに来て下さい	▶ 8時50分から9時のあいだに来てください

◆⑦文末はなるべく統一する

文末は「です」「ます」「してください」のかたちに統一しましょう。

(2) 主語を明確にする

主語がわかりにくい文章は、主語を明確にしましょう。日本語の文章には主語のないものも多くみられますが、〈やさしい日本語〉では主語を補うことも必要です。たとえば、英語では基本的に主語を省略して文章をつくることができません。そのため、逆に主語のない文章は主語を補わないと翻訳ができません。機械翻訳でも、主語がない文章の翻訳は著しく精度が落ちてしまいます。

また、主語と述語がきちんと対応しているかも確認しましょう。主語がない文章は、外国語への翻訳でも苦勞することになります。

【例】

今日の午後なら時間があります ▶ 私は、今日の午後なら時間があります

(3) 指示語や代名詞はなるべく使わない

「これ」「それ」「あそこ」などの指示語や「彼」「彼女」などの代名詞は、前後の文脈や情報から何を指しているのかを読みとる必要があります。繰り返しが続くと、くどいと感じるかもしれませんが、確実に伝えるためには何を指しているのかを明確に示した方がよいです。

(4) 1文を短くする

一文一義とつながる部分もありますが、1文の長さはできるだけ短くしましょう。「～たり、～たり」「～の～の」「～が、～」「～ので、～」などはできるだけ避けて、文章をわかるようにしましょう。また、まわりくどい言いまわしや不要な繰り返しも避けましょう。

【例】

危ないので、近づかないでください。 ▶ 危ないです。近づかないでください。
問題があるということになる ▶ 問題がある
調査を実施した ▶ 調査した

(5) 固有名や重要な言葉・用語

〈やさしい日本語〉は、基本的には平易な表現・言葉を使うことが大切です。しかし、固有名や重要な言葉は、そのまま使ってください。ただし、言葉のあとに<=…>で説明をくわえてください。

【例】

罹災証明書 ▶ 罹災証明書 <= 地震や大雨などで
家が壊れた人のための書類 >
津波 ▶ 津波 <= 大きな波 >
余震 ▶ 余震 <= あとからくる地震 >

(6) 絵や図、ピクトグラム（絵文字）を活用する

絵や図、ピクトグラムを使って視覚的にわかりやすくすることも有効です。ただし、日本人には見やすくわかるものでも、文化の違いによって伝わらなかったり、違った意味に解釈されたりすることもあります。



ポイント3 表記

(1) ルビを振る（漢字とカタカナ）

漢字とカタカナにはルビを振ってください。ルビは初出だけでなく、すべてに振ってください。漢字にルビを振るときは、単語ごとにルビを振りましょう。送り仮名にはルビを振らないようにしましょう。

[例]

しゅつにゆうこくざいりゅうかんりちよう
出入国在留管理庁

しゅつにゆうこくざいりゅうか ん りちよう
出入国在留管理庁

かわさきしこくさいこうりゅうせんたー
川崎市国際交流センター

かわさきしこくさいこうりゅうせ ん た ー
川崎市国際交流センター

る び ふ る
ルビを振る

る び ふ る
ルビを振る

(2) 箇条書き、番号を振る

3つ以上のことをいうときは、箇条書きにしましょう。また、解説や手順、ルールなどを説明するときは番号を振るとわかりやすくなります。

[例]

入会をご希望の方は、窓口にお越しいただくか、ホームページでの申込み、または電話・FAXでお申し込みください。



入会をご希望の方は、3つの申込み方法があります。

- 窓口での申込み
- ホームページでの申込み
- 電話・FAXでの申込み

(3) 時間や年月日

元号よりも、なるべく西暦を使いましょう。年月日の表記に「/」「.」は使わないようにしましょう。「/」「.」は日本以外でも使われることがあります。アメリカでは「月/日/年」、ヨーロッパでは「日/月/年」と並びが異なるので誤解が生じる可能性があります。また、年度を使うときは、「〇年4月1日から〇年3月31日まで」などと補足しましょう。

時間の表記は24時間表記にするか、12時間表記の場合には「午前・午後」を明記しましょう。「午前・午後」のかわりに「AM・PM」を使う場合には、前ではなく、後ろにつきます。

[例]

令和5年4月1日	▶	2023年4月1日
2023/4/1 2023.4.1	▶	2023年4月1日
PM 5 : 30	▶	5 : 30 PM

コラム



【読みやすいフォント】

文字や文章の読みやすさは、フォントによっても違ってきます。たとえば、アルファベットの「q」と数字の「9」などはフォントによって見わけるのが難しかったりします。癖の強いフォントは使わないようにしましょう。最近では、誰にとっても見やすく読みやすいユニバーサルデザインを意識したUDフォントが注目されるようになってきました。

(4) 漢字とひらがなの使いわけ

非漢字圏の人にとって、漢字を読んだり、意味を理解したりすることは簡単なことではありません。次のものは、むやみに漢字を使うのは控え、なるべくひらがなを使うのが望ましいです。

[例]

従って ▶ したがって 但し ▶ ただし 若しくは ▶ もしくは

及び ▶ および 並びに ▶ ならびに 又 ▶ また

全く ▶ まったく 全て ▶ すべて 多分 ▶ たぶん

例えば ▶ たとえば 恐らく ▶ おそらく 極めて ▶ きわめて

出来る ▶ できる 下さい ▶ ください

※「など」は「等」としないで、ひらがなにする

(5) 分かち書き

〈やさしい日本語〉の文章では、分かち書きを使うことも有効な方法の1つです。分かち書きとは、文節のあいだに空白(スペース)を入れる書き方です。実は、世界のほとんどの言語は分かち書きです(単語と単語のあいだにスペースがあります)。日本人は、分かち書きをしていなくても、単語や意味のまとまりがどこで切れるかを感覚的に見わけることができますが、日本語に不慣れな外国人にはとても難しいことです。とくに漢字が苦手な外国人にとっては、漢字が続くとどこで区切ればよいのかは見わけがつけにくいです。また、2通りに読める文章など、日本人でも正確に意味がとれないこともあります。

[例]

川崎市市民文化局市民生活部多文化共生推進課

▼
川崎市 市民文化局 市民生活部 多文化共生推進課

ここではきものを脱いでください。

▼
ここでは きもの(着物)を 脱いでください。

ここで はきもの(履物)を 脱いでください。

〈やさしい日本語〉での会話

ここからは、〈やさしい日本語〉での会話のポイントを紹介します。〈やさしい日本語〉のつくり方で紹介、説明した「情報」「表現、言葉づかい」という2つのポイントは、会話の場合も基本的に同じです。ただし、会話の場合には相手の反応をみながら配慮や工夫することが重要です。

(1) 短く区切って、ゆっくり、はっきりと話す

今日はいい天気です。
出かけようと思います。
買い物に行きます。
帽子を買います。



(2) 敬語は控えめにする

[例]

こちらにご記入ください ▶ ここに書いてください
おかけになってお待ちください ▶ 座って、少し待っていてください

(3) 最後まで言い切る

語尾を濁して相手に意図を汲みとってもらうのではなく、「してほしいこと」「してほしくないこと」ははっきりと伝えるようにしましょう。

[例]

わからなかったのですが…
▼
わからなかったので、もう一度説明してください

~していただかないと…
▼
~していただかないと、できません

(4) 理解しているかどうか確認する（繰り返し）

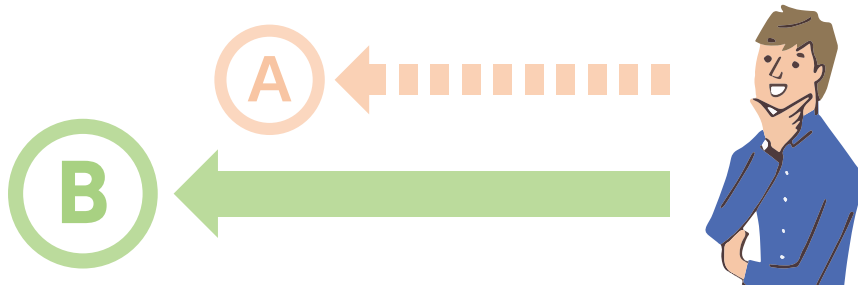
相手が理解しているかを丁寧に確認しながら、話をすすめましょう。

【例】

ここまでの内容はわかりましたか？
 ここまでで何か質問はありますか？

(5) 積極的に言葉を言い換える

伝わっていないかなと思ったら、簡単な言葉や表現に言い換えたり、具体例を示したりするのも有効です。



(6) あいづちをたくさん打つ、相手の話を理解したことをはっきり示す



(7) 大事なことはメモに書いて渡す

対面でのコミュニケーションがとれていても、家に帰ってから思い返すとやっぱりわからなくなってしまうということもあります。大事なことはメモに書いて渡しておく、見返したり、調べたりするときに役立ちます。また、あとで日本語のわかる人に聞いたりすることもできるので有効です。



第3章

参考情報

〈やさしい日本語〉の作成に役立つツール

〈やさしい日本語〉への書き換え例

出入国在留管理庁・文化庁, 2020, 『別冊 やさしい日本語書き換え例』。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/92484001.html

言語情報処理や日本語教育の専門家が開発した日本語の難易度を調べるツールが無料で公開されています。〈やさしい日本語〉で文章を作成するときに活用してください。

(1) やんしす

<http://www.spcom.ecei.tohoku.ac.jp/aito/YANSIS/>

(2) やさにちチェッカー

<http://www4414uj.sakura.ne.jp/Yasanichi1/nsindan/>

(3) リーディング チュウ太

<https://chuta.cegloc.tsukuba.ac.jp/>



外国人とのコミュニケーションに役立つツール

〈やさしい日本語〉ではありませんが、外国人とのコミュニケーションに役立つツールもあります。

■ VoiceTra (話しかけると外国語に翻訳してくれる音声アプリ)

<https://voicetra.nict.go.jp/>

App Store



Google Play



参考文献

庵功雄, 2016, 『やさしい日本語——多文化共生社会へ』岩波書店。

庵功雄・イヨンスク・森篤嗣編, 2013, 『「やさしい日本語」は何をを目指すか』ココ出版。

岩田一成, 2016, 『読み手に伝わる公用文——〈やさしい日本語〉の視点から』大修館書店。

出入国在留管理庁・文化庁, 2020, 『在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン』。

〈やさしい日本語〉のポイント集

● ポイント1 情報

- (1) 対象と目的を明確にする 9
- (2) 情報を整理して絞る 9
 - ① 優先順位の低い情報は削る 9
 - ② 重要な情報は前にもってくる 10
 - ③ 1つの文章には1つの意味(一文一義)にする 11
 - ④ 例示は3つまでに 11
 - ⑤ 必要に応じて情報を補足する 11

● ポイント2 表現、言葉づかい

- (1) 平易な表現や言葉づかい 12
 - ① 漢語ではなく和語にする 12
 - ② カタカナ語に気をつける 12
 - ③ 敬語ではなく普通語にする 13
 - ④ 専門語ではなく日常語にする 13
 - ⑤ 二重否定や排他文は使わない 13
 - ⑥ 曖昧な表現は使わない 13
 - ⑦ 文末はなるべく統一する 13
- (2) 主語を明確にする 14
- (3) 指示語や代名詞はなるべく使わない 14
- (4) 1文を短くする 14
- (5) 固有名や重要な言葉・用語 14
- (6) 絵や図、ピクトグラム(絵文字)を活用する 15

● ポイント3 表記

- (1) ルビを振る(漢字とカタカナ) 15
- (2) 箇条書き、番号を振る 16
- (3) 時間や年月日 16
- (4) 漢字とひらがなの使い分け 17
- (5) 分かち書き 17

● 〈やさしい日本語〉での会話

- (1) 短く区切って、ゆっくり、はっきりと話す 18
- (2) 敬語は控えめにする 18
- (3) 最後まで言い切る 18
- (4) 理解しているかどうか確認する(繰り返し) 19
- (5) 積極的に言葉を言い換える 19
- (6) あいづちをたくさん打つ、相手の話を理解したことをはっきり示す 19
- (7) 大事なことはメモに書いて渡す 19



川崎市〈やさしい日本語〉ガイドライン 第2版

2023年3月

川崎市 市民文化局 市民生活部 多文化共生推進課

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1

TEL 044-200-2846 FAX 044-200-3707

E-mail 25gaikok@city.kawasaki.jp